

特養ホーム増設、介護保険料引き下げを



渡場さとし市議

は、「特養ホーム待機者ゼロを求めて」質問。厚生労働省が全国の特養ホームの待機者数が52万人と発表。町田市状況については「待機者は1

557人。うち要介護3以上は915人」と答弁がありました。また、介護保険料と利用料の引き下げを求めました。

を認め、「第6期のなかで検討する」と答えました。また、介護保険料と利用料の引き下げを求めました。

また、相原から八王子医療センター行きのバス路線を求めたことに対しては、「運行は厳しい」と地域住民の願いに背を向ける答弁。

精神障がい者の当事者と家族が安心して暮らせる町田市を求めて質問。統合失調症の息子さんを持つ母親の方の切実な声を紹介し、利用の申請や更新は煩雑な手続き。ショートステイを利用できる施設が市内にはないことを改善すべきだと求めました。

認可保育所増設で待機児ゼロに



池川友一市議

認可保育所の増設で待機児ゼロを求めて質問。2014年度の認可保育所申し込みにおける不承諾件数が492件（二次募集時）となる中、年度途中の補正予算も含めて対応することを求めました。

大きく低下しました。町田市内で安心して子どもを産むためのに不可欠な新生児医療体制の充実を求めたところ「医師確保をすすめていく」と答弁がありました。

徴収強化でなく生活再建支援を「外部監査」の指摘によって、市税などの滞納処分・差押えの強化がすすめられようとしています。

国税の引き下げ、減免制度の拡充を



佐々木とも子市議

は、国保制度の減免・軽減の積極的活用と、資格証の発行（保険証の取り上げ）をやめるべきだと質問。減免適用は55人、保険税の7・5・2割

軽減は被保険者の34%に適用している一方、100人以上の滞納者への差押えをおこなっていることが明らかになりました。

るなか、「現在の博物館を残してほしい」という地元住民の声にこたえたいと存続を求めました。歴史民俗系の収蔵品は教育委員会との一元管理も含め「これから検討」という答弁に終りました。

への経済的負担軽減を求めると質問では、保育料への「みなし寡婦控除」適用は、「近隣自治体の動向を見て対応する」と答弁。子どもの医療費無料化は、「重要な課題の一つと認識している」と答弁しましたが、実施していくとは答えませんでした。

特別教室にもエアコン設置を小中学校の特別教室（理科室・家庭科室等）へのエアコン設置は、「2014年度中に未整備の図書室への設置を完了させる。その後、早期に短期間でやりたい」と学校教育部長が前向きに答えました。

新生児医療の抜本的充実を市民病院の新生児科の医師が1名減ったことよって、入院数もベッド稼働率も大

池川市議は、「丁寧な対応とともに、包括的に滞納を入りに生活再建の支援をすべきだ」と求めたのに対して、「提案も踏まえて対応していく」と答弁がありました。

